

修士論文(要旨)
2008年7月

内モンゴル自治区と日本の中学校における
英語教科書に関する比較研究
—1年次の題材を中心に—

指導 森住 衛 教授

国際研究科

言語教育専攻

20641420

斯琴格日樂

目次

序論

- 1. 研究の目的 1
- 2. テーマ設定の理由 2
- 3. 研究の方法 3

第 I 章 教科書制度・学習指導要領・題材の重要性 4

- 第 1 節 教科書制度 4
- 第 2 節 学習指導要領における題材の扱い 4
- 第 3 節 題材の重要性 7

第 II 章 教科書構成の比較・分析 11

- 第 1 節 表紙 11
- 第 2 節 見返し 11
- 第 3 節 扉 12
- 第 4 節 登場人物 13
- 第 5 節 写真と挿し絵 14
- 第 6 節 目次 16

第 III 章 教科書の本課・本文の比較・分析 17

- 第 1 節 ことばの教育 17
- 第 2 節 異文化理解教育 20
- 第 3 節 人間教育 27
- 第 4 節 本課・本文における題材に関する語彙 33

結論

- 1. 本研究のまとめ 34
- 2. 本研究の応用性 37
- 3. 今後の課題 37

注 38

参考文献 39

謝辞 41

資料

- 資料 1 内モンゴル自治区の基本事情 1
- 資料 2 2006 年の版内・日の教科書の表紙 2
- 資料 3 内・日の教科書における見返し 4
- 資料 4 内・日の教科書における写真と挿し絵 6
- 資料 5 内・日の教科書における目次の比較表 7
- 資料 6 内・日における教科書(2006)の題材比較表 1 12
- 資料 7 内・日における教科書(2006)の題材比較表 2 15
- 資料 8 内・日における教科書(2000)の題材比較表 16
- 資料 9 教科書の本課・本文における題材に関する例文 18
- 資料 10 教科書の語彙リスト 28

要旨

本研究は内モンゴル自治区と日本の中学校 1 年次における英語教科書の題材を比較・分析したものである。内モンゴル自治区(以下内モンゴルとする)は、中国の北部に位置し、モンゴル族が居住している自治区である。中国の英語教科書は地域によって異なるため、筆者の出身地ー内モンゴルと留学先の日本における教科書の比較研究を行った。中学校のことを中国では初級中学と言う。北京、上海などの地域では、小学校 3 年次から英語の授業を始めている。しかし、内モンゴルでは、日本と同じように、中学校から英語を教える学校が多い。

本研究のテーマを設定した理由は以下の 3 点である。

1)なぜ英語教科書なのか

教科書は学習者が英語を学習する主たる教材である(沖原 1989:185, 河原 2002:269)。

2)なぜ題材なのか

教科書の題材は思想性があり、重要な要素である(小寺 1987:89, 森住 1992:2, 1997:iii, 中村・峯村 2004:164)。

3)なぜ中学校 1 年次なのか

中学校 1 年生は精神活動が本格的に開花する時期で、これからの英語学習を方向づける特別な時期である(小寺 1993:73, 森住 1997:iii)。

本論文の目的は以下の 3 点である。

1)内・日の学習指導要領における題材に関する項目を分析し、その重要性を考察する。

2)内・日の教科書構成における題材を比較・考察する。

3)内・日の教科書の本課・本文における題材を比較・考察する

研究の方法は次の通りである。まず、論文の構成は 3 章立てであり、第 1 章が教科書の概観について、第 2 章が教科書構成の比較について、第 3 章が本課・本文の比較・分析についてである。第 1 章は研究の目的の 1 番、第 2 章と第 3 章を目的の 2 番と 3 番に当てている。次に、調査の対象は、2000 年と 2006 年に出版された中学校 1 年次の検定済の教科書 10 冊を調査する。なお、本論文では、新版と旧版の教科書を調査したが、新版の 2006 年版を中心として調査する。

本研究をまとめると、第 1 章では、両国の教科書制度と学習指導要領、題材の重要性と分類について述べた。両国の学習指導要領または課程標準では、題材に関してどちらも強く扱っていないことを明らかにした。第 2 章では、内・日の教科書構成を分析し、全体像を明らかにした。日本の教科書では、伝統や習慣に関する挿し絵が多く見られるが、内モンゴルの教科書ではモンゴル族の伝統や生活に関する挿し絵が全くない。第 3 章では、本課・本文における題材内容の比較・分析を行った。両国の教科書では人間教育が一番多く、平均 80%以上を占めていることがわかる。内モンゴルの教科書で扱っていることばと異文化理解教育に関する題材の平均値は 4.3%と 17.4%であり、日本が 17.4%と 56.5%である。

両国の中学校英語の学習指導要領では、題材を大事に扱うことに関する検討が必要である。中国はたくさんの少数民族を持つ特色がある国なので、内モンゴルの教科書では、モンゴル族を含め、いろいろな民族に関する挿し絵を扱うべきである。

今後は、言語材料と言語活動についても研究し、日本の中学校 3 年間の英語教科書を分析、調査して、内モンゴルの教科書改善に役立てたい。

参考文献

- アダチ徹子・楊肖力 (2003)「中国と日本の英語教科書の内容の比較研究」『宮崎大学教育文化学部紀要』 9, pp.43-51 宮崎大学教育文化学部
- 井出祥子 (1972)「題材と表現形式」『英語教育』 1972年10月号 pp.15-18 大修館書店
- 大谷泰照 (2006)「諸外国の外国語教育からの示唆」『英語教育』 2006年2月号 pp.10-13 大修館書店
- 沖原勝昭 (1989)「アジア諸国の英語教科書比較研究—学習初期の言語材料の種類と配列について— 文部科学省研究費による研究報告 その2」『神戸大学教育学部研究集録』 83, pp.185-198 神戸大学教育学部
- 小篠敏明 (2005)『明治・大正・昭和初期の英語教科書の計量的分析(平成15年度~16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(1))研究成果報告書』 広島大学大学院教育学研究科
- 小篠敏明・中村愛人 (2001)『明治・大正・昭和初期の英語教科書に関する研究:質的分析と解題』 溪水社
- 小篠敏明・馬本勉・松岡博信・本岡直子 (2002)「英語教科書 *New National Readers, The Globe Readers, The Standard English Readers* の計量的分析研究」『日本英語教育史研究』 17号 pp.21-40 日本英語教育史研究会
- 河原俊昭 (2002)「フィリピンと日本における入門期の英語教科書の比較」『中部地区英語教育学会紀要』 132, pp.269-276 中部地区英語教育学会
- 教科書研究センター (1984)『教科書からみた教育課程の国際比較 6 英語科編』 ぎょうせい
- 後関正明 (1997)「NEW CROWN はこう使おう」『英語教育』 1997年4月号 pp.31-33 大修館書店
- 小寺茂明 (1993)「第5章 入門期における教科書比較—外国語習得の観点から—」『続々・中学校英語教科書の比較研究』 大阪教育大学英語教育講座
- 田中正道 (1991)『コミュニケーション志向の英語教材開発マニュアル』 開隆堂
- 中村敬・峰村勝 (2004)『幻の英語教材—英語教科書、その政治性と題材論—』 三元社
- 猫田和明 (1999)「オランダにおける英語教科書の変遷—題材論の一考察—」『教育学研究紀要 第二部』 45号 pp.121-126 中国四国教育学会
- 宮崎裕治 (1993)「英語教科書の題材分析—中学校編—」『大阪産業大学校論集』 79号 pp.95-127
- 森住衛 (1992-1993)「英語教育題材論(1)~(12)」『現代英語教育』 研究社
- (1995)「学習指導要領の変遷が意味すること」『英語教育』 1995年9月号 pp.16-18 大修館書店
- (1997) *NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition Teacher's Manual* 三省堂
- 馬占祥 (1999)「我区民族学生英语学习困难分析语教学改革」『中国大学英语教学论丛』 外研社
- 程林 (2004)「高中英语教材的发展与牛津英语的引进改编」『中小学英语教学与研究』
- Ozasa, Toshiaki & Ranjan C.K. Hettiarachige (2004) *A Quantitative Analysis of English Textbooks of China, Korea, and Japan* KOTESOL PROCEEDINGS